

2017(平成 29)年度事業計画書

当協会は 1992 年の設立以来、遠赤外線域の放射伝熱を利用した遠赤外線関連産業の振興及び遠赤外線製品の認定事業などを通じた消費者保護活動を推進し、2012 年の一般社団法人への移行後も活動を継続してまいりました。この間、遠赤外線応用範囲は、加熱系の加熱乾燥・室内冷暖房から保温繊維系の衣料・寝具や美容・健康・宝飾類まで広がっています。昨年度より協会のキーワードを一新し「無限の広がり 遠赤外線 未来への可能性」を掲げ、一般社団法人として協会活動が遠赤外線応用製品をご使用のお客様や会員企業のメリットに繋がる様、活動の見直しを行ない新たな取組みがスタートいたしました。

新たな視点で事業活動を見直すため、定款第 3 条に定めた遠赤外線関連産業の振興と消費者保護活動という協会の目的や FIR4ALL (Far Infrared Rays for All: 全ての人々に貢献する遠赤外線) に照らし、昨年、会員の皆様や各運営機関にアンケートを実施し、協会運営への希望や意見を把握・検討し、主な取組みを 2 つに定め推進中です。1 つ目は、これまで培ってきた遠赤外線応用関連の調査研究で蓄積された「技術情報データベース」を会員以外の方にも活用いただける様に一定の範囲で公開する取組みです。2 つ目は、消費者保護を目的に進めている自主認定（認定マーク）を会員メリットや多くのお客様に認知いただける様、認定制度の見直しを進めてまいります。他の会員メリットに繋がる活動も含め、関係省庁や関連団体のご賛同いただきながら協会会員のご理解とご協力のもと、一つずつ着実に進めてまいります。

1. 遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究（定款第 4 条第 1 号関係）

1) 協会保有の遠赤外線関連技術の系統化とその利活用

当協会が設立以来実施してきました遠赤外線関連の調査研究をまとめた技術情報のデータベースが完成し、昨年度はその活用について加熱/保温繊維小委員会合同で検討しました。会員専用ページでの活用や協会のプレゼンス向上や新たな会員の勧誘ツールとするため、開示し活用出来るデータの選定や公開内容・方法について審議いたしました。

今後、加熱/保温繊維小委員会合同で十分な議論を通して、一般の方々にとって魅力のある遠赤外線関連の調査研究成果を分かり易い形で公開をしてまいります。

2) 常温域放射機構及び遠赤外加熱・乾燥に関する調査研究

「遠赤外線による快適な暖かさ」にスポットを当てた遠赤外線の作用効果解明シリーズ「暖かさを科学する」の 5 年目を迎えます。今年度は、昨年度までの住環境の快適性評価と最新技術の調査に加え、昨年度の会員アンケートから、下記 2 つを実施します。1 つ目は、未だ認定基準化されていない「寝具・寝装類や接触型の電気暖房器」分野の放射率や効果測定に関する検討がスタートしました。保温繊維小委員会を中心となり、大学・測定機関の有識者と関連企業で検討し可能性が出できたことから、今年度はその具体性を検討し、この分野の認定基準の可能性を検討します。2 つ目は、遠赤外加熱・乾燥・

暖房分野は、会員外からの遠赤外線設備の導入に関する問合せが増えたことから、「技術情報データベース」の一部公開に合わせ、更なる省エネ機器の普及に繋がる最新技術情報の収集や専門企業への訪問・意見交換を実施してまいります。

2. 遠赤外線関連製品・技術に関する情報の収集及び提供（定款第4条第2号関係）

1) 基盤的情報の収集及び提供

平成29年度定時総会講演会には、立命館大学機械工学科教授 木股 雅章氏を迎え、「赤外線検出の原理と非冷却赤外線イメージセンサとカメラの最新動向」と題して、ご講演を頂きます。

また、今年度も会員への発信手段である「会報」を活用し、遠赤外線関連製品・技術に関する文献、特許、新聞などから情報を収集し、会員の皆様に提供するとともにデータベースとして蓄積してまいります。会報に毎回掲載する「産業クリッピング」を使い、各種新聞やインターネットの情報検索・調査による「新技術情報や関連企業活動、国内外の政府政策動向」に「国内の新製品や企業活動情報」を加えたトピックス記事を、出来るだけタームリーに情報提供します。

一般の方々には、遠赤外線関連技術データベースの一部公開により協会の認知度アップや新たな会員入会に繋がる情報発信を行い、結果として遠赤外線の正しい知識啓発と関連製品の普及促進に繋がるように取組んでまいります。

2) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会（JASE-W）

国際展開技術集2018年版の作成を通して、遠赤外線応用製品・システムの特長や効用を世界に紹介するとともに、その掲載内容の見直しや追廃を検討します。また、定期的で開催される「連絡会」に出席し、政府助成関連の情報や企業の海外展開を支援する官民ミッション団の情報などを会員の皆様にお知らせします。（JASE-W ニュース）

3) 「会報」の編集、発行

遠赤外線製品に関する関連業界情報、特許情報、大学や研究機関などから発表される遠赤外線関連論文を定期的に紹介します。また、有益な製品・技術を開発した技術者に投稿を依頼し、最新の技術情報を掲載します。さらに、会員紹介、自由投稿など会員相互の情報交換に有益な情報や協会の活動内容、政府の諸政策や内外の関連情報を掲載します。今年度の発行数は3回から2回に減らすものの、その内容を充実させ協会ホームページの会員専用ページにフルカラー版で掲載します。

4) 遠赤外線に関する各種相談

一般の方々や会員外の遠赤外線技術者からの質問に対して、会員メリットを損なわないよう情報管理を行いながら、中小企業対策、遠赤外線関連産業の育成や遠赤外線の正しい知識啓蒙の一環として進めていきます。

5) 経済産業省関連情報等の会員への配信

経済産業省の新たな所管部署（素材産業課）との交流を深め、省庁政策動向や意見交換から得た情報を会員に発信します。また、その他関連団体情報や新聞やインターネットから協会に関連ある情報などを、速やかに会員に情報共有してまいります。

6) 遠赤外線関連施設見学会の実施

遠赤外線関連企業の現場を訪問し、遠赤外線技術の奥深さと利用領域の広さを体験する場として今年度も遠赤外線関連施設の見学会を実施します。

3. 遠赤外線関連製品・技術に関する普及及び啓発（定款第4条第3号関係）

1) 認定マーク・認定基準の普及促進と適用商品の拡大

認定審査委員会（加熱分野、繊維分野）を開催し、新規案件の審査を行います。また、さらに協会認定制度・認定マークを一般の方々に認知いただくため、協会小冊子の配布、協会ホームページでの広報などを通じて、普及啓発・宣伝活動を展開します。また、認定必要経費の実情に合わせ、申請料改定と認定審査時期の見直しを図ってまいります。

ホームページを改訂し各社の認定品の紹介を行なうと同時に、認定品の宣伝を行う企業と連携して協会認定制度、認定マークの普及啓発を促進します。

2) 技術シンポジウムの開催

第28回遠赤外線技術シンポジウム（11月2日（水）、浜松町東京會館）を開催します。2016年度より経済産業省より後援を頂きましたので、講演や技術発表のテーマや講演者などを工夫し、会員や外部参加者が増えるように充実を図ります。また、会員企業や計測器メーカー、測定機関などの協力を得て製品展示を併設します。

3) 遠赤外線技術／認定研修会

今年度も、「遠赤外線技術研修会（基礎・応用）」を東京（協会事務所）で開催します。また、認定制度を広く認知いただくため、一般の方を対象にした「認定研修会（都内：協会事務所）」や受講希望者の多い地区、企業・団体に出張し実施する「出張認定研修会」を計画します。

4) マスコミに対する協力及び小冊子の配布

新聞社、雑誌社などマスコミの遠赤外線に関する取材、特集の企画に協力し、遠赤外線の正しい理解と認定制度・認定マークの普及促進に努めます。

研修会などを通じて小冊子を配布し、一般の方々や会員外の遠赤外線関係者に遠赤外線を正しく理解して関連製品をお使いいただくよう啓蒙活動を展開します。

5) 展示会

積極的に他団体の各種イベントには出展しませんが、協賛や出展の依頼があった場合には、運営委員会等で展示会内容などを勘案し、協賛や出展の検討を行います。

6) 協会文書のデジタルアーカイブ化と利活用

協会活動や他団体と共同で作成・編集された文書、プレゼン資料、パンフレットなどの著作物を重要度に応じ、順次デジタル化し、協会文書のアーカイブ化を推進します。

7) 新規会員の拡大活動と協会会員マークの浸透

遠赤外線関連産業の振興を図るには、遠赤外線を使って事業を営む企業を会員として、ともに活動していくことが重要です。従来活動を通して協会の認知度アップを図りましたが、会員減少に歯止めを掛け活動の輪を広げるには新規会員を獲得する取り組みが必要です。協会として今年度は従来分野の企業や遠赤外線が利用可能な異業種に入会の呼びかけを行なってまいります。また、協会会員マークをより多くの会員の名刺、カタログ、ホームページなどの広報媒体などに掲載いただき、協会活動がより一般消費者の皆様に見える様に努めてまいります。

8) 一般の方々への情報公開・ホームページの充実

事業報告書、決算報告書(貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録)、事業計画書、収支予算書など所定の事項を公開します。会員情報や当該年度の遠赤外線製品・技術振興表彰の内容、協会(受託も含む)が発行した書籍類のタイトルや目次を速やかに更新します。一般の方々や外部企業には、「遠赤外線とは?」、「FAQ」などの遠赤外線基本情報を提供してまいります。また、今年度より会員紹介の見える化、遠赤外線認定品コーナーや、「技術情報データベース」の一部公開コーナーの新設を通して、会員同士および会員外との技術交換や入会促進に貢献できるようにすると共に、表示画面をスマートフォン対応させ、協会ホームページアクセス数の向上を図るなど、その充実に努めます。

会員専用ページには、総会、理事会、運営委員会などの議事録を迅速に掲載し、会員の皆様に「見える協会活動」を実践します。また、最新版と直近1年分の会報、リーフレット、文献検索結果、受託/自主事業報告書、遠赤外線関連掲載記事をタイムリーに掲載するなど情報提供の場として、会員に活用していただけるよう充実に図ります。

9) 遠赤外線協会製品・技術振興表彰及び永年継続会員表彰の実施

会員より推薦いただいた受賞候補者を選考委員会で審査し、優秀製品・技術賞、研究開発賞、功労賞の表彰を行ないます。これら振興表彰に加え、20年以上会員を継続いただいた企業・団体を永年継続会員表彰として第25回定時総会にて表彰します。

4. 赤外線関連製品・技術に関する内外関係機関などとの交流及び協力(定款第4条第4号関係)

1) 国内関係機関との交流及び協力

セラミックス素材などの赤外線関連団体や学会との会合などを通じて、交流及び連携を推進します。入手した情報は、関連委員会に報告し適時メール等で会員の皆様に提供します。また、技術シンポジウムや研修会などの協会活動や省庁・関連団体のイベントに参加し外部機関との交流を深め、さらに産学官の人脈構築を図ります。協会に寄せられた異業種や会員外からのビジネスマッチング相談は、内容を検討し関連会員へ情報提供を行います。

2) 海外関係団体との交流

欧州、アジアなど海外関係機関との交流を積極的に推進し、講演などの要請があれば、実施を検討します。昨年から交流を始めた eihap（欧州赤外線リエゾン）とは、情報提供など緩やかな連携からスタートして参ります。また、香港遠赤外線協会（HKFIRA）への認定制度支援事業の進展は、先方からの回答待ちの状態です。

海外関係団体との交流で入手した情報は、関連委員会に報告し、会報、ホームページなどを通じて会員の皆様に情報提供します。

平成 29 年度事業計画書（ダイジェスト版）

[I] 事業の概要

1. 遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究（定款第 4 条第 1 号関係）
 - 1) 協会保有遠赤外線関連技術の系統化：保有技術 DB の一部を公開。公開内容と方法検討
 - 2) 常温域放射機構及び遠赤外加熱利用に関する調査研究：
「暖かさを科学する」を継続し、寝具系や接触型電気暖房系認定基準の検討
加熱・乾燥・暖房分野の保有技術公開と最新技術情報の収集
2. 遠赤外線関連製品・技術に関する情報の収集及び提供（定款第 4 条第 2 号関係）
 - 1) 基盤的情報の収集及び提供：定時総会の講演会（立命館大学理工学部 木股雅章教授）
関連技術や新製品情報の収集、データベース公開による一般消費者への普及啓発
 - 2) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会：国際展開技術集、グローバル展開情報の提供
 - 3) 「会報」の編集発行：年 2 回。カラー版による最新の産業・特許情報や遠赤技術の掲載
 - 4) 遠赤外線に関する各種相談：消費者や企業などからの質問・相談（マッチング）対応
 - 5) 経済産業省関連情報などの会員への配信：会報・メールでの速やかな会員への情報提供
 - 6) 遠赤外線関連施設見学会の実施：遠赤外線関連施設への見学会実施
3. 遠赤外線関連製品・技術に関する普及及び啓発（定款第 4 条第 3 号関係）
 - 1) 認定マーク・認定基準の普及促進と適用商品の拡大：申請料や審査委員会時期の見直し
寝具系や接触型電気暖房気器の認定基準化の為の測定技術検討
ホームページの大幅改定や外部イベントでの認定冊子配布による啓発・宣伝活動
 - 2) 技術シンポジウムの開催：参加者増に向けた講演会・技術発表や展示会を 11 月 2 日開催。
経済産業省や関連団体の後援・協賛。業界新聞社とのコラボ。
 - 3) 遠赤外線技術／認定研修会：技術研修会：年度前半開催、認定研修会：2018 年 1-3 月開催
 - 4) マスコミに対する協力及び小冊子の配布：メディア取材に協力、2 紙に会長年頭所感提供
 - 5) 展示会：積極的な出展は行わない。協賛や出展の依頼があった場合には内容を十分検討
 - 6) 協会文書のデジタルアーカイブの利活用：協会活動で蓄積されるデータのアーカイブ化
外部でも利活用出来そうな一部アーカイブの一般公開と P R
 - 7) 会員拡大活動と協会会員マークの浸透：各種問合せ対応や現会員紹介による新規会員増
 - 8) 一般の方々への情報公開・ホームページの充実：消費者への遠赤外線基本情報、協会の各種
情報の更新、認定品や技術 D B の紹介、最新情報やイベントの案内
 - 9) 遠赤外線協会製品・技術振興表彰及び永年継続会員表彰の実施：優秀製品・技術／研究開発
／功労の各賞及び永年継続会員表彰
4. 赤外線関連製品・技術に関する内外関係機関等との交流及び協力（定款第 4 条第 4 号関係）
 - 1) 国内関係機関との交流及び協力：関連団体との意見交換、日系の海外展開情報の入手
 - 2) 海外関係団体との交流：欧州・アジアの各国遠赤外線機関との交流